



## 「生活習慣病」って、どんな病気をいうの

### 「生活習慣病」のもとの名は「成人病」

「生活習慣病」というのは、もともと「成人病」といわれていた、「がん」「脳卒中」「心臓病」などを、まとめていうときの、新しいいい表し方(名前)です。

「生活習慣病」という名前が使われるようになったのは、1997年2月1日から始まった、「平成8年度生活習慣病(成人病)予防週間」からです。

もともとは、「成人病」ということばが使われていたのですが、これは、医学用語ではなく、厚生省が1957年ごろから、使い始めた用語だったのです。

### 「生活習慣病」という名前が使われるようになったのは

「成人病」の研究を続けているうちに、成人病になるのは、食生活、たばこ、お酒、運動、休養などの、生活習慣が深く関わっていることが、わかってきました。

また、「がん」「脳卒中」「心臓病」の3大成人病以外にも、糖尿病、高血圧症、腎臓病などについても、対策が必要になってきました。

そこで厚生省は、「がん」や「心臓病」など、病気ごとにばらばらだった予防や、診断・治療対策を、「生活習慣病」の総合対策として、一本化するようにしたのです。

具体的には、塩分のとりすぎに注意をしたり、たばこをすう人の率を下げるようにしたりするなど、国民の生活習慣の改善を効果的にすすめていくことと、病気になることそのものを、少なくしていこうというものです。(監修・保志 宏)

